

丁寧に桑の葉を摘み取る東部特別支援学校伊豆松崎分校の生徒＝松崎町伏倉

**桑葉を今期初収穫
支援学校生も協力**
松崎

松崎町で食用桑の葉を使った町おこしに取り組む企業組合松崎桑葉ファームは8日、桑の葉の収穫を同町伏倉で今期初めて行った。

同町の東部特別支援学校伊豆松崎分校の生徒も協力した。

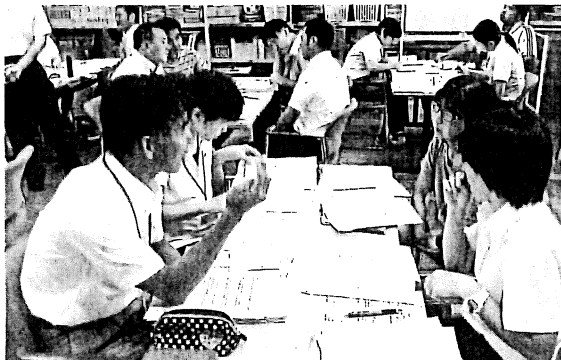
組合員や生徒、教員ら約20人が参加した。同日朝に刈り取った1・5メートルほどの枝から、青々とした葉を一枚一枚丁寧に摘み取った。葉は同組合の工場で粉末状に加工される。同組合によると、葉の収穫は年に3回予定している。粉末約1500キログラム分の収穫を見込んでいる。

同校生徒が4月に植

樹した苗木の葉は、9月に収穫する予定。

松崎 支援学校教員が防災対策検討

県賀茂振興局は30日、松崎町の東部特別支援学校伊豆松崎分校で教員向けの防災講座を開い



た。授業時間外の安否確認方法などを検討した。

危機管理課の奥矢倫知主任が講師を務めた。奥矢さんは受講した同校の全教員18人に対し、町内や近隣市町の被害想定を解説。「生徒の命は必ず守らなければならない。想定を把握した上で対策を考えて」と訴えた。

ワークショップでは5グループに分かれ、授業時間外に災害が発生したときの対応を議論。

教員の参集時期や生徒との連絡手段など、発生から学校再開までの手順を考えた写真。災害備蓄品の不足分や新たに必要な品目の確認も行った。